いなほ

令和４年１０月３１日
令和４年度学校だより NO.36②
加古川市立平荘小学校

セリフの読み合わせをしました（６年生：狂言学習）

今年度も演目は、『附子』と『柿山伏』と『猿唄』です。昨年度よりも人数が少ない分、一人当たりのセリフの量が増えました。

６年生のやる気は、すごいものです。意欲に満ち溢れています。一人一人の声も、お腹の底からしっかり出せています。これからが、とても楽しみです。

≪山口先生のご指導より≫

今から読み合わせをしましょう。大きな声で、ことばを届けようという気持ちで、姿勢を正して、手本を持って、焦点を合わせて読みましょう。緊張した中で、いかに声を届けるかです。

読み合わせの隊形を変えましょう。

セリフは、もう少しゆっくり話して、相手に伝えようと思って話しましょう。特に最初は登場人物の自己紹介があります。

『附子』

「はあーっ」の言い方で、遠くから近付いて来る様子と、移動時間を表します。

「附子」と「留守」は掛けことばです。

ことばを読んでいるだけではダメです。何かを伝えようとすることが大事です。ことばの意味が伝わるように、相手に伝えようとしましょう。観客に伝えようとしましょう。

相手に伝えようという気持ちで、セリフを磨いていきましょう。

独り言のセリフであっても、観ている人に聞こえないと意味がありません。はっきりと届くように言わないといけません。

今のセリフが後のセリフにつながっていることを意識しましょう。話す速さを変えて落差を作ることで、後半のセリフが生きてきます。全体で作っていきます。

AI ではできない、人間は日々感情の中で生きています。人にしかことばは存在しない。ことばは、相手を傷つけることもあるし、相手を和ませることもできます。これをわかってほしいです。

ことばはみな違います。その場の状況によって変わってきます。ことばは文字とは違います。文字を読むのですが、文字をどうことばにして表現するかです。難しいことですが、楽しいです。自分の感情をのせていきましょう。

山伏は、山で修業を積んで自信に満ち溢れています。威厳をもたせて言うようにしましょう。その威厳のある山伏が、柿を盗んで食うているおもしろさを表現しましょう。

あなたは、どんな大きさの柿の木を想像しますか。あなたが思う柿の木を表現してください。

「やっとな」「やっとな」の掛け声で、距離を表現します。セリフの間のとり方で、柿の木の大きさを表現しましょう。

最初の名のりをきちんとしてほしいです。山伏が、後から失敗をするからコメディーになります。山伏の性格ぶりを観ている人にうえつけてほしいです。

「とびそうな　とびそうな・・・」は、『飛ぶ』と『鳶』をかけています。テンポをだんだん速くして、のせてきましょう。

６年生のみなさん、心構えは十分できています。頑張って今まで練習をしてきました。先輩のDVDも観てきたと思います。去年と同じ発音です。

今年は今年です。君たちの『附子』、君たちの『柿山伏』を作ってください。
真似をしようと思わないでください。自分たちで作っていきましょう。

何事も、最初が肝心です。「まあいいか」とすましてしまうと、結局最後まで直すことができない状態が続きます。

『つなぐ』とは、真似をすることも大事ですが、同時に、今、その時の人が新しいものを工夫し、考えを足していかないと続きません。
次につなげようと思うと、新しいものをそこに入れます。
『つながる』ことが、伝統で、真似をするだけではつながりません。先人の知恵を借りながら、そこに自分流を加えていきます。そのためのお手伝いをします。